

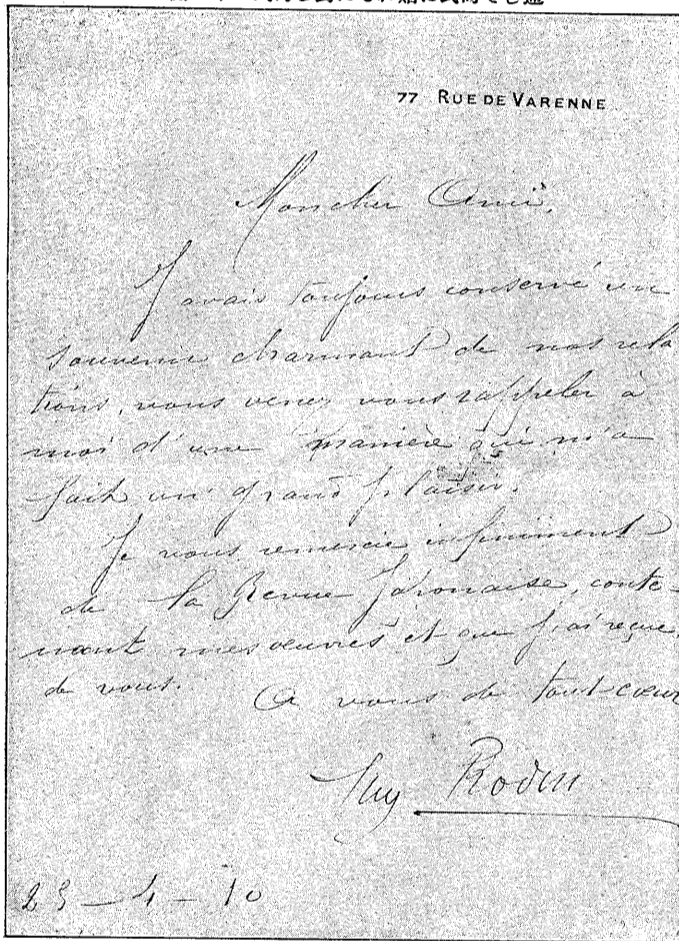
と交渉した結果が、やつとの事四間と三間二尺の地面を割いて貰ふことになつた。こんな狭い地面ではどうする事も出来ないが、軍司令部の方では土地の廣狭などは問はない、成るだけ多くの人に見られる場處ならいと云ふ。で、仕方なしにあらぬ八角の臺石を造ることにした。當り前なら臺石の四方に柵を結つた方が、立派でもあるし、自らの權衡から云つてもさうなればならないのであるが、何しろ今お話ししたやうな場處なので、あつて無意味に八角の石を積むやうなことになつてしまつたのである。

私は廣瀬中佐の偉業を表彰するに就いては三つの腹案があつた。一つは單獨な廣瀬中佐を造るの程の事跡は、かの閉塞のことであらねばならぬ。然るに單獨な中佐だけの像では充分にその場の意味を現はすことは出来ない。一體閉塞といふことは、船に乗つて目的の地點まで到達するのが難かしいので、其處まで達すれば跡は譯はない。機を見計らつて信號を下す。それを合圖に繫索を切斷して錨を卸す。と同時に船底に降りて行つて爆發させる。この繫索を切斷することゝ爆發させることが杉野兵曹長の役目であつた。これらの總ての仕事は完全に遂行した處に中佐の功績は懸つてゐるのであるが、單獨の立像ではどうもそれを表現することは難かしい。そこで第二案として、中佐の立像と共に臺石の四方に、薄肉彫でその時の光景を寫眞的に現はすことにした。第三案は中佐と兵曹長とのあの時の心持を一種の形に現はさうとしたもので、詰り今立つてゐるやうな式のものである。私はこの三個の案の模型を造つて軍司令部へ提出した。さうして審議の結果第三案が採用されることになつたのである。

背後に錨のあるのは一つは權衡を取る爲で、錨の意味を説明せんが爲には兵曹長の手からその方へ鎖が廻してある。私が今度の銅像を造るに就いて最も苦心したことは、各々の容貌が正の者に酷似してゐて、然るその當時の緊張した光景を想像せしむるやうなものでなければならぬといふ事である。何事もな平常の容貌を寫すだけでは駄目なので、あの場合、如何にもあつたらうと思はせるのでなければいけない。私はその爲には色々故人の友人知己にも會つて、その意見を聞いて見た。中佐と共に福井丸に乗船してゐた栗田機關少佐にも會つた。杉野兵曹長の友人も幾人か工場へ来て助言した。

### 翰來氏ンダロ匠巨

を氏郎太新下山を號前誌本るせ介紹を氏ンダロ  
狀謝のりよ氏同し對にる贈に氏同てじ通



鑄像は總て海軍省附屬の工場をやつたが、設備が完全してゐるから、何でも思ふやうに行つた。鑄き上げのまゝ色も着けなければ手も入れず、その儘で据え付けたのは如何にも氣持のいい事で、地金も極く精撰してあるから、これから本當の色も出やうと云ふものである。鑄造の方は總て岡崎雪聲氏が監理してくれられ、据付その他の工事は大石技師や安藤技手が骨を折つてくれた。一體原形を造る者は造る者だけで、臺石の方は他に一任して置くのが普通なのだ、出来るだけ冗費を節約しようといふ主意から、土臺も設計も私が引受けた。基礎工事を初めたのは四十二年の一月二日

のことで、さあ地面を掘つて見ると豫想外に土が柔かい。何しろ埋立地同様な處だから無理もないが、中佐の像の高さが一丈二尺、その重量だけでも千五百貫もあらうと云ふのだから、これでは仕方がない。普通なら地下五尺も掘つて地形をすればいゝのだが、到頭一丈三尺も掘らなければならぬ事になつた。一寸聞くと何でもないやうだが、深くなればなる程、段々穴の大きさを擴げて行かなければならぬのだから、その努力は大變なものである。さうしてこの大きな穴を悉くコンクリートで堅めるのである。この位の事を地下に仕掛けて置かないでは、逆もあれだけの重量の物を心配なしに乗せて置けるものではない。併しそれと

昨日往つたよ、大に楽しんで往つた所爲か餘り感心したのは無つたネ……満谷國四郎氏の「赤い花」(太平洋畫會)も大分評判の様だが形の整つて居る割に深みが無くつて子、吉田博氏の「鳩」(太平洋)もイヤだつたよ色彩が俗で淺薄な感じを與てネ、併し同氏の景色にはなかく、善いのが有つた一體描き安いが景色の方が皆良く出来てゐる、磯部忠一氏の「公孫樹」とか「幽溪」(太平洋)とか藤島英輔氏の「山湖」(太平洋)などは温かい趣味が流れて居てイ、

(譯文)

我が親愛なる友よ、  
私は卿等(曾て同氏を訪ひたる日本人等を意味す)との交情を記憶し常に懐しく思へり。今又卿等が予に與へたる大なる喜びに依つて予は卿等を思ひ起す。

予は卿等が我作品を載せたる日本の雑誌を予に送られた事を深謝す。  
満腔の誠意を以て  
オオギキスト・ロダン  
千九百十年四月二十五日

如きは此惡傾向の影響を遺憾なく現した繪の一つと見て差つかへあるまいよ、藤島武二氏(白馬會)の作品は何れも大膽な遣り方がして有つて色もイ、氣に入つたのは参考品のホンタネデーの「女神」(白馬會)を見ると全く亦空氣が違がふ、感じが快い。殊に毛髪を描き方などは實に旨い者だネ、要するに日本畫でも洋畫でも一般の畫界を通じて新しい一つの傾向はある從來に空氣から離れた一種の作法が生れつゝある、しかし夫れが今言つた形式の改變さばかり見へる遣り方以外に本當に眞面目に大膽な試みがある、遣り方の工夫といふ事と同時に内容の充實が急務だと思ふよ。

木下茂氏の「日傘」(太平洋畫會)の

装飾的の繪畫には賛成が出来ない。本畫の立場から言つて内容の淺薄なると裝飾的に成りたがが自分は日

鳥渡面白繪だけれどアンナ形式ばかりの造り方の畫があつて進んで往つて果して眞に新しい意味の繪が出来やうか、裝飾風もイ、が唯變て新しいとばかりでは物に成るまい、今少し内容に充ちた眞面目な態度が欲しいぢやないか、斯う言つた傾向は日本畫にも有る、徒らに形式を新しく爲やうと云つてヤヤもする

### 洋畫展覽會所見

上野の洋畫の展覽會へ往つて見たかつて? 梶田半 古君談

でも、費用さへあれば何の事はないのだが、何も彼も引包めて二萬五千圓しきやないのだから、その苦辛も一通りではない。私の今の希望は彼處に早く中央停車場でも出来て、銅像の周圍が公園になつたらと云ふことで、同一の像にしても背景との對照から、どれだけ引立ちも、又見劣りもするかも知れないのである。それから銅像の保管方は神田區の獎兵義會に依頼してあるから、その方は心配することはない。